

平成27年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

I. 施設関係

1. 特別養護老人ホーム

(1) はじめに

本年度も定員 40 名に対し、満床月はなく、月平均利用者実人員は 35.9 人であった。長期入院などによる退所者は 2 名、新規利用者は 6 名である。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 82.4 歳、女性 89.3 歳であり、男女合計の平均年齢は 88.2 歳である。なお、特養の年間平均稼働率は 89.56%であった。26 年度 81.23%に比べると、稼働率は 8%近く上がっている。これは、例年に比べ利用者の体調が安定しており、入院が少なかったことがあげられる。(別表 1 参照)

前年度は周辺環境の激化に依り、空床が速やかに埋まらなかった。月島、日本橋地区の地域密着型特養の新設、ショートステイ専門施設の増加等、年々競争は激化してきている。本年度は、前年度に比べると空床の埋まり方は良好であり、利用ニーズが戻りつつある傾向が伺える。稼働率を上げるためには、利用者の健康管理に留意し、入院による空床を出さないこと。更に、ショートステイの空き情報の工夫、特色あるショートステイづくりにより、利用者の増員を図ってゆくことが望まれる。

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は 26 年度の 4.14 に対し、27 年度は 4.21 とやや高くなっている。(別表 2 参照) 平均年齢、平均介護度が上がっている理由として、利用者の在住期間が延びていることが大きい。特養での対策としては、適切な健康管理の下で一層の介護の充実を図るとともに、利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることである。

そのため、①健康管理の徹底 ②衛生管理の徹底 ③日常生活での異常に対する緊急対応の徹底があげられる。27 年度においてもインフルエンザやノロウィルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室トイレの除菌用ウォシュレット、居室等への除菌剤の配置などを強化した結果、感染症の発生は前年度同様、ゼロにおさえられた。

特養における感染症は、数年来発症ゼロという成果をあげている。

また、本年度も利用者の心身の健康管理の層を厚くした。嘱託医による身体の定期的な健康管理に加え、精神科医による精神面のケア、リハビリ医による機能面の維持、向上への取組み、口腔においては、歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持に取組んだ。

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組んだ。特に、東北での震災をふまえての防災訓練や夜間帯を想定した防災訓練の実施、また、利用者の転倒、転落事故を予防するため、前年度同様に見

守りロボット等の介護・ロボットの活用を推進していった。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティア、インターンシップの積極的な受入れを行い、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努力した。ボランティア、インターンシップの交流においては、普段接することの少ない若年層との世代間交流を通して、利用者の感性に温かい刺激を与えるものとなった。

レクリエーションでは、セラピードッグ、音楽療法、書道、そろばん、チェアピクス、健康吹き矢等々、心身機能の活性化に重点を置いたプログラムの活動に意欲的に取り組んできた。特に、前年度より取り入れた健康吹き矢は、ボランティアによる指導のもと、心身の機能訓練に大変効果をあげている。

リハビリテーションは、リハビリ医の指導のもと、機能訓練担当の看護師、介護職、理学療法士、言語聴覚士、栄養士との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができた。また、本年度も“日常生活動作”のリハビリに力を入れた。「利用者の自己実現を日々の生活に活かしてゆく」を目標とし、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリの実施を図った。

その他、5月には鉄砲洲稲荷例大祭があり、子ども神輿の休憩場所として施設の駐車場を開放した。お菓子や飲み物を施設の前に用意し、利用者と子どもたちとのふれあいの場所となった。7月には地域有志の協力による「和太鼓」や盆踊りの催し、デイサービスとの協働の春、秋の運動会、外出レク、お誕生日会は各月 25 日に行っており、主催委員による各種レクリエーションを毎月バラエティに執り行っている。

また、本年度は区内の企業から車椅子の寄贈があった。企業の社会貢献活動の一環として、当施設が選ばれ車椅子 6 台の寄贈を賜った。企業の厚意を周知徹底し、これからも地域の方々のために貢献できるよう努めてゆく。



平成28年2月26日 日星産業株式会社より寄贈

2. 短期入所生活介護

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的に利用しやすい状況であった。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供している。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげている。

周囲の経営環境としては、区立特養「マイホームはるみ」「マイホーム新川」、区立の老健施設の6ヶ月長期利用、ユニット型特養「晴海苑」、そして平成25年11月開設した地域密着型特養「ケアサポートセンターつきしま」、平成26年9月開設「ケアサポートセンター十思」等、年々経営環境は厳しい状況にある。別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は前年度の102.96%に対して、27年度は103.69%と約0.7%の増加となっており、一時的に減少のみられた前年度に比べると、利用者が戻ってきた状況といえる。ショートステイ単独での年間稼働率は、197.91%であり、特養の稼働率が上がった分、ショートステイの稼働率はやや下がっている

(2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ツウ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機（介護・ロボット）を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能とした。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供している。

入浴：週3回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っている。

機能回復訓練：個別機能回復訓練、機能訓練指導員による集合訓練・レクリエーション・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導。

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応

(3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決した。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。

- ・希望する日にショートステイが混んでいて予約できない。

(4) 一年の状況と今後の課題

連休や行事のある時など、希望の日にちに予約しづらくなっているという現状がある。抽選に漏れてしまった方についても、キャンセル待ちの登録など、空きベッドが出た時にすぐ利用できるような連絡体制の確立と情報の提供を徹底していくことが必要である。一方、周辺環境の競争激化の流れの中で、空床を速やかに埋めるということが厳しい状況となってきた。情報提供の工夫、特色あるショートステイづくりが今後の課題と言える。さらに前年に引き続き、本年度も胃ろう、ストーマ、インスリン注射、在宅酸素等の医療的対応を必要とする利用者が著しく増えた。今後も医療対応の利用者は増え続けることが予想され、職員のケアの質の向上が今後も課題とされることである。

いずれにしても、引き続き一人ひとりの状況にあわせてきめ細かいケアを行えるように、個々のニーズの把握に努めること、今後もまた利用したいと思えるような魅力あるサービスを提供すべく、サービスの質の向上に努めることが急務である。

3. 通所介護

(1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見直し編成の年度でもあった。22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられた。その要因として、利用者のデイサービスへのニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられる。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくした。

「新とみ」ではこうした利用者、家族のニーズを受け、23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えた。外部的には居宅介護支援事業所等にリハビリの案内チラシを配布、またデイサービス見学者、体験者を積極的に受け入れ、リハビリ体験を試みた。こうした外部へのはたらきかけが功を奏し、利用者は徐々に増えていった。本年度もリハビリを目的とした利用者が半数以上を占めている状況である。しかしながら、一時期の利用者増加の様相は見られず、リハビリを目的とした利用においては一巡化したきらいがある。周辺環境はリハビリデイと言われるリハビリ専門のデイサービスが増加し、数年来競争激化の状況となっている。本年度もリハビリ・ロボットを導入、活用したリハビリを実施し、利用者一人ひとりの目標、意欲を高めるのに大変効果があった。

リハビリにおいては、引き続き利用者のニーズに応えるべく力を入れて取り組んでゆく方向であり、併せて、在宅生活への支援の一役になれるようなサービスを構築してゆくことが望ましい。

医療的対応については前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者がさらに増えていることがあげられる。胃ろう4名、ストーマ1名、インスリン4名、バルーンカテーテル3名、痰吸引4名、在宅酸素2名他、これら医療的対応に応じるため、

看護師 2 名体制をとり、手厚いケアに努めている。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題である。

また、訪問診療を利用している利用者も多く、訪問診療医、訪問看護師との連携も必要不可欠となっている。本年度は、デイの看護師、相談員と、居宅のケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との協力体制づくりに取組んだ。

27 年度の利用実人員は別表 8 のとおり 1,233 名、利用実人員は前年度と比べて 36 名増加した。新規利用者については、医療的対応を必要とする利用者、在宅における介護者の介護力の低下、リハビリ希望等、様々な理由による申し込みである。退所者の多くは特養、老健入所、入院がほとんどである。また、延べ利用回数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均 8.53 回となり、前年よりも約 1% 増えている。利用者の平均年齢は別表 7 のとおり男女合計の平均では 80.1 歳となっている。内訳では男性 76.7 歳、女性 82.6 歳で、前年よりもやや低くなっている。

デイサービスに係わる送迎利用率は 99%、入浴利用率は 86.8% となっている。

前述したとおり、特養・ショートに関しては既に 100% 以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務である。

(2) 運営状況

① 行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催している。また、食事サービスやお買い物代行などの在宅生活支援のための活動は継続中である。22 年度から始まった朝食サービスは、本年度も利用者や家族、ケアマネジャーから好評を得ている。特に独居の高齢者の生活を支えるひと役として、食事サービスは欠かせないものとなっている。前年度より始めた延長サービスも引き続き実施している。夕食後、午後 7 時過ぎに送迎車で利用者を自宅まで送り届ける。朝食サービスから、延長サービスまで、これらのサービス利用により、家族の負担軽減、且つ、在宅での生活維持を可能にしているといえる。

表 1 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月末

項 目	利用人数	延 数
朝食サービス	177	1,696
1 ヶ月平均	14.75	141.33
持帰り弁当	225	2,645
1 ヶ月平均	18.5	220.42
配食サービス	13	164
1 ヶ月平均	1.08	13.67
夕食サービス	60	472

1ヶ月平均	5.00	39.33
-------	------	-------

また、送迎においては、前年度から階段昇降機(介護・ロボット)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができた。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果であった。

リハビリにおいては、周辺のリハビリ専門デイサービスの増加により、年々競争激化の様相であり、特色ある、きめ細やかなリハビリが求められる。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、朗読、ファッションショー、そろばん教室、介護予防運動、相撲甚句、歌、健康吹き矢、アロマセラピー等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されている。前年度より取り入れた健康吹き矢は、ボランティアによる指導のもと、特養、デイ合同のレクである。呼吸法等、心身機能のリハビリに大変効果をあげている。更に本年度はペッパー、パルロといったコミュニケーションロボットを導入した。介護予防体操、歌、ゲーム等のレクを通して、ロボットと利用者とのユニークなコミュニケーションを図っている。この様子はイギリスのロンドン・タイムス紙にも掲載された。

バスハイクは、日頃外出する機会の少ない利用者に好評を博している外出レクである。お花見、紅葉狩りの他、毎回利用者の希望を取り入れた場所を企画し、感性豊かな時間を創るよう努めている。

「日々、感動を届ける」これが目標である。デイサービスで過ごす時間にひとつでも多くの感動を利用者に届けることができるよう、今後も目標としてゆきたい。

平成20年11月にスタートした「若年認知症デイサービス」は、「練馬若年認知症サポートセンター」へ活動の拠点を移行した。本年度も新とみデイサービスと連携しつつ、新たな取り組みを試みている。

この他、当期中に行った主な行事は以下の表2のとおりである。

表2 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 江東区・大横川から仙台堀川公園まで桜見物のバスハイク 川面に映る桜の美しさに魅了されたひと時だった。 ・春の大運動会 デイ、特養合同で玉入れ、輪投げ等に汗した
----	---

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・大正琴（女性4名） なつかしの名曲、季節の名曲が琴の音で流れていった ・相撲甚句（男性2名） 力強い相撲甚句が、利用者と一緒に響き渡った。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・バスハイク 浅草雷門、スカイツリー、アサヒビール本社、墨田公演あじさい観賞 他 下町の季節感溢れる風情に参加者は感激していた。 ・詩吟教室 詩吟の先生による指導のもと、上達をみせている。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会（地区の女性ボランティア4名） 和太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった ・スイカ割り大会 デイ、特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルファッションショー（女性5名） 息の長いボランティアによる、ファッションショーは、根強いファンが多い。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・カンナリアンコーラス（男性4名、女性8名） 敬老の日にちなんで、懐かしい歌謡曲や名曲の数々を皆で歌った ・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区健康福祉まつり参加（5回目） そろばん教室開催 5回目 こどもからお年寄りまで大盛況の一日だった。 ・秋の大運動会 特養、デイ合同の大運動会は、利用者が熱中するイベントだった。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・紅葉狩り 北の丸公園から神宮外苑のイチョウ並木までバスハイク。想い出深い利用者も多く、感激に浸った紅葉狩りだった。 ・傾聴ボランティア（3名） 仏教総合研究所「ボランティア・プロジェクトダーナ東京」所属のお坊さんたちが来所。約1時間、優しい時間を利用者と共に共有した。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。「てんでこ一座」が参加し、それは華やかなクリスマス会だった。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年会 利用者、職員との新年会は、カラオケによる紅白歌合戦。 ・ミステリーツアー 東京ゲートブリッジまでバスハイク。新年の澄み渡った彼方に初富士がくっきりと浮かび、忘れられないバスハイクとなった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ・メイク（かづき れいこ主催） 特養、デイ合同のリハビリ・メイクは、利用者をイキイキと変身させてくれた。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会（参加家族他16名） 定例の家族会。特養、ショート、デイ利用者の家族とともに、会食、歓談の時間を持った



紅葉狩り
神宮外苑イチョウ並木



中央区健康福祉まつり
そろばん教室



コミュニケーションロボット
Pepper とレクリエーション



鉄砲洲神社例大祭
「新とみ」にて子ども神輿休憩中

②ボランティア、実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをした。定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、詩吟ボランティア、傾聴ボランティア等が年12回。その他、デイでは地域の方が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれている。特養においても、毎週水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々の協力、支援を受けている。

実習生は、介護職員初任者研修、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得の実習生を多く受け入れた。また本年度は、大学生インターンシップ、大学生ボランティア、イナッコ教室ボランティア(夏休み社会体験)等を積極的に受け入れた。実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに大変良質な刺激をもたらせる結果となり、今後も積極的に受け入れてゆく方向である。

表3 平成27年度・実習生等の受け入れ実績

項目	人数(延)
介護職員初任者研修	45人
介護福祉士取得	65人
教員免許取得希望者介護体験	70人
職場体験	2人
大学生インターンシップ	50人
大学生ボランティア実習	10人
イナッコ教室ボランティア	1人

③入浴・機能訓練

デイサービス利用理由の大きな1つとして入浴がある。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は86.8%である。

また、機能訓練に関しては、本年度も理学療法士、言語聴覚士の配置を厚くし、利用者一人ひとりの心身に寄り添った、きめ細かな個別機能訓練を実施し、自己実現を試みている。

特養・デイサービス合同

4. 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し、①年中行事委員会、②栄養委員会、③身体拘束廃止委員会、④排泄・褥瘡委員会、⑤ケアプラン委員会、⑥感染症対策委員会、⑦事故防止対策委員会、⑧防災対策委員会、⑨リハビリ委員会、⑩環境・口腔ケア委員会、⑪安全・衛生委員会(介護職のための)等を開催した。20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催している。

5. 行事

3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して(前掲表2参照)各種行事に取り組んだ。

6. 健康管理

新しく入所する利用者には、入所時に診療情報を提出してもらい、定期診断についても、移動診断を依頼し、館内にてレントゲン撮影等を受診した。また、11月にはインフルエンザ予防接種の同意を得られた方について嘱託医による実施をした。同時に、適度な室温と湿度の維持、消毒液による手指の清掃等の取り組みを徹底した。日常のケアについても、嘱託医による週1回の往診、精神科医、リハビリ医による月2回の往診、歯科医、歯科衛生士の定期的な口腔ケア、更に診察が必要な方については、通院の便宜を最大限図るようになっている。

7. 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在3名の職員が入団している。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に努めた。また、新規に採用された職員については、消防機器訓練を随時実施している。さらに、京橋消防署への研修参加のほか、地域等の協力も得て、毎月一回「震災・消防訓練」を実施している。

8. 職員研修

4月～3月：毎月1回 早朝研修、夕方研修

9月～1月：メンタルヘルス研修

2月～6月：喀痰吸引実地研修

4月～3月：幹部、リーダー層を中心とした社外研修

表4 社内研修

No.	名称	開催日	人数	備考
3-1	・喀痰吸引研修 (2月～6月まで) ・喀痰吸引実地研修	4/12, 4/26, 5/10 5/24, 6/7, 6/21 10回	7名	主催:介護労働安定センター
3-2	介護インストラクター研修	4/22, 4/24, 5/13 5/15, 6/3, 6/5, 7/1 7/3	2名	主催:つしま財団
3-3	介護ロボット活用研修	平成28年1月～	8名	リショナーネ、マッスルスーツ 他
	早朝研修 7:30～8:00 夕方研修 17:30～18:00	平成27年4月～ 平成28年3月	特養 デイ	講師:勝野顧問 常勤、非常勤対象
3-4	特養における看取りと看取り 指針	4/6	7名	特養・デイ合同 7:30～8:00 特養 4名 デイ 3名
3-5	胃ろう、喀痰吸引等の医療につ いて	5/11	6名	特養・デイ合同 特養 3名 デイ 3名

3-6	感染症対応について	6/1	8名	特養・デイ合同 特養 4名 デイ 4名
3-7	褥瘡ケア、スキンケア	6/29	7名	特養・デイ合同 特養 4名 デイ 3名
3-8	口腔ケアについて	7/13	6名	特養・デイ合同 特養 3名 デイ 3名
3-9	平成27年8月1日施行の介護保険制度について	8/1	8名	特養・デイ合同 特養 4名 デイ 4名
3-10	福祉施設におけるリスクマネジメントについて	9/6	13名	特養 4名 7:30~8:00 デイ 9名 17:30~18:00
3-11	マニュアルの見直しについて	10/5	12名	特養 4名 デイ 8名
3-12	認知症高齢者に対する理解	11/2	14名	特養 5名 デイ 7名
3-13	ノロウイルス、インフルエンザ感染症の予防と対応	12/7	12名	特養 4名 デイ 10名
3-14	記録の書き方、根拠ある記録とは	1/4	13名	特養 5名 デイ 6名
3-15	接遇・サービスマナーと施設サービス	2/1	14名	特養 5名 デイ 9名
3-16	事故・ヒヤリハットケースから見える、危機管理	3/7	13名	特養 4名 デイ 9名



社内研修 デイサービス



社内研修 特養

表5 社外研修

No.	名称	開催日	人数	備考
4-1	「健康保険90年、介護保険15年 歴史と展望」	5/29	1名	主催：福祉社会総合研究所
4-2	「健康アライアンス勉強会」	6/11	1名	主催：健康アライアンス勉強会事務局
4-3	「医療保険改革と今後の展望」	7/3	1名	主催：福祉社会総合研究所
4-4	「マイナンバー時代のリスクマネジメント」	7/8	1名	主催：東京商工会議所
4-5	「地域で取り組む医療・介護の連携」	7/11	1名	主催：日本経営戦略
4-6	「社会福祉施設における腰痛予防対策講習会」	9/7	1名	主催：東京都社会福祉協議会
4-7	医療・介護業界ビジネス交流会 「認知症 BPSD の軽減でみんなが楽に！認知症を取り巻く環境づくりは～」	10/29	1名	主催：東京商工会議所
4-8	感染症予防研修 「ノロウイルス、インフルエンザ対応」	11/11	1名	主催：東京都福祉保健局
4-9	「医薬品産業に関する行政の課題」	11/13	1名	主催：福祉社会総合研究所
4-10	「キャリアパスの効果的活用による介護職員の育成、定着セミナー」	11/27	2名	主催：東京都福祉保健財団
4-11	「個性を活かして生きる」	11/30	1名	主催：東京経営者協会
4-12	「ロボット×ICTが変える！明日のリハビリと介護サービス」	12/5	1名	主催：日刊工業新聞社

4-13	「生きる力」を育むキッズニアの事業創造セミナー	12/11	1名	主催：サービス産業生産性協議会 事務局
4-14	「やる気に溢れる職場の作り方」マネジメントセミナー	12/14	1名	主催：東京経営者協会
4-15	介護ロボット「重点分野別」講師養成研究会	12/17	1名	主催：テクネイド協会
4-16	「今後の社会保障について、医療行政を中心として」	1/22	1名	主催：福祉社会総合研究所 厚生労働事務次官 二川 一男
4-17	「認知症本人と家族を支えるチャリティーライブ」	2/14	3名	主催：認知症サポートセンター 若年認知症家族
4-18	「三越・伊勢丹の経営戦略」	2/22	1名	主催：代表取締役 社長執行役員 大西 洋
4-19	「中央区口腔ケア講習会」摂食嚥下に関する講習会	2/29	6名	主催：京橋歯科医師会
4-20	「人権擁護について」	3/10	1名	主催：東京都福祉保健局
4-21	「医療保険制度を考える～地域包括ケア、イノベーション」	3/14	1名	主催：福祉社会総合研究所 講師：厚生労働大臣官房
4-22	CareTEX：介護施設産業展 介護施設ソリューション展	3/16	1名	主催：ブティックス株式会社
4-23	「社会福祉法人における高齢人材の確保について」	3/23	1名	主催：社会保険労務士法人あかつき

9. 視察・取材

本年度は施設の視察、取材に、国内外から多くの人を訪れた。

国内では特筆すべきトピックスとして、11月5日、塩崎厚生労働大臣の視察があった。

「介護離職ゼロ」を掲げ、介護現場の改革に取り組む姿勢をもって、精力的に視察された。また、国外からの視察・取材は中国、台湾、韓国、ドイツ、スイス、イギリス等、多国に渡った。目的は主に介護ロボット、リハビリロボットであったが、日本の介護保険への関心も高く、意見交換の席では活発な意見が飛び交った。

イギリス・タイムズ紙からはコミュニケーションロボット：ペッパー、パルコの取材があった。利用者とレクリエーションをする様子を見ながら、タイムズ紙の記者から「日本の高齢者はなぜロボットを受け入れるのか？イギリスの高齢者では考えられない」と、一石が投げられた。

Ⅱ. ウィング訪問ケアステーション

はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設した。本年度は、新規の利用者開拓に力をいれ、パンフレット、チラシ等を配布し、近隣の居宅介護支援事業所に働きかけた。

1. 新規利用者：2 名 中央区在住
2. なりひら訪問からの引継ぎ：5 名 中央区在住

現在、中央区を拠点として営業を図っているが、今後は江東区等にもエリアを広げてゆけるよう、サービスの充実に取り組んでゆく。

同時に、研修を始めとした教育の充実を図り、質の高いサービスの提供をめざしてゆく。

(別表1)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	6名	82.4	71～94
女	33名	89.3	76～101
(全体)	39名	88.2	76～101

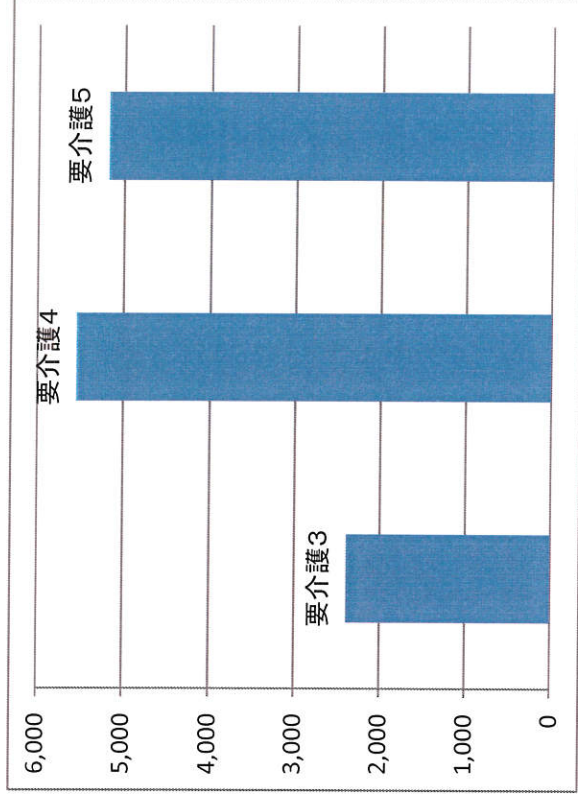
(別表2)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	170	200	210	186	186	210	217	184	190	217	203	217	2,390
要介護4	450	471	510	558	542	480	502	450	434	402	369	372	5,540
要介護5	396	404	420	419	404	393	354	398	461	498	515	520	5,182
計	1,016	1,075	1,140	1,163	1,132	1,083	1,073	1,032	1,085	1,117	1,087	1,109	13,112
要介護平均	4.22	4.19	4.18	4.20	4.19	4.17	4.13	4.21	4.25	4.25	4.29	4.27	4.21
実人員	35	38	38	38	38	37	37	36	37	38	39	37	448
述べ定員数	1200	1240	1200	1240	1240	1200	1240	1200	1240	1240	1160	1240	14,640
1日平均利用者数(A)	33.9	34.7	38.0	37.5	36.5	36.1	34.6	34.4	35.0	36.0	37.5	35.8	35.9
稼働率	84.67%	86.69%	95.00%	93.79%	91.29%	90.25%	86.53%	86.00%	87.50%	90.08%	93.71%	89.44%	89.56%

特養（定員40名）

(別表3)



(別表4)

< 年度末平均年齢 >

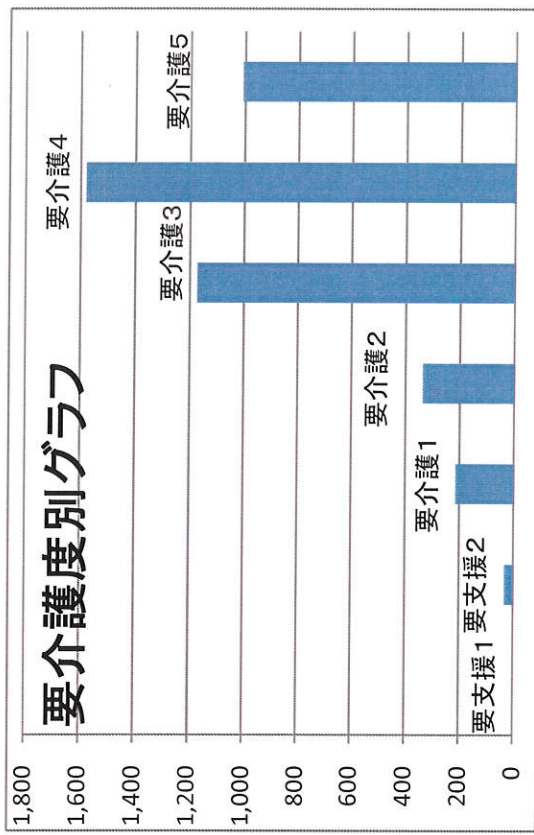
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	16名	84.1	67～101
女	29名	84.5	68～96
(全体)	45名	84.4	67～101

(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													0
要支援2							3	4	4	12			34
要介護1	16	32	18	30	25	21	11	8	10	26	6	11	214
要介護2	39	57	0	6	10	30	24	40	25	35	25	47	338
要介護3	186	151	90	52	66	75	95	88	93	89	77	109	1,171
要介護4	126	102	118	111	155	144	140	173	163	109	109	130	1,580
要介護5	70	57	60	86	93	98	90	97	114	91	72	81	1,009
計	437	399	286	285	360	368	363	410	409	362	289	378	4,346
要介護平均	3.45	3.24	3.71	3.76	3.72	3.73	3.74	3.74	3.83	3.50	3.75	3.59	3.64
実人員	50	53	32	40	43	48	46	47	46	46	41	45	537
述べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	174	186	2,196
1日平均利用者数(人)	14.6	12.9	9.5	9.2	11.6	12.3	11.7	13.7	13.2	11.7	10.0	12.2	11.9
稼働率	242.78%	214.52%	158.89%	153.23%	193.55%	204.44%	195.16%	227.78%	219.89%	194.62%	166.09%	203.23%	197.91%

(別表6)



ショートステイ(介護予防含む)(定員6名)

(別表7)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	42名	76.7	58～90
女	56名	82.6	57～99
(全体)	98名	80.1	57～99

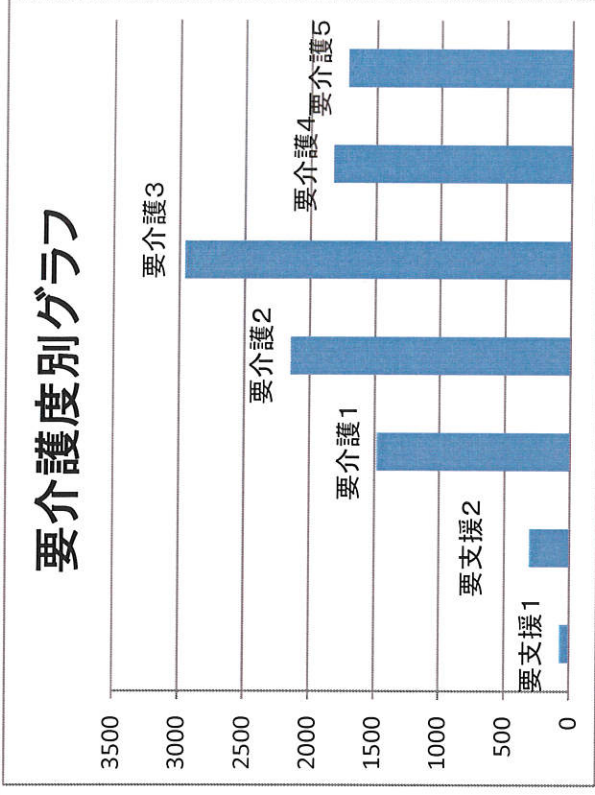
(別表8)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	5	10	13	11	12	8	7	7	0	0	0	0	73
要支援2	16	26	27	24	24	30	36	33	30	22	21	21	310
要介護1	130	148	156	144	119	131	134	102	104	112	101	101	1,482
要介護2	151	141	163	193	192	201	190	192	199	172	163	192	2,149
要介護3	233	251	260	249	252	207	259	269	273	269	226	210	2,958
要介護4	128	113	134	142	153	164	142	159	150	181	174	188	1,828
要介護5	89	113	117	149	155	159	164	152	150	164	151	159	1,722
計	752	802	870	912	907	900	932	914	906	920	836	871	10,522
要介護平均	2.80	2.78	2.78	2.87	2.95	2.93	2.92	2.98	2.98	3.08	3.08	3.08	2.94
実人員	93	100	102	102	105	107	106	108	104	107	101	98	1,233
述べ定員数	1,140	1,178	1,140	1,178	1,178	1,140	1,178	1,140	1,138	1,054	986	1,054	13,504
1日平均利用者数(人)	25.1	25.9	29.0	29.4	29.3	30.0	30.1	30.5	29.2	29.7	28.8	28.1	28.8
稼働率	65.96%	68.08%	76.32%	77.42%	76.99%	78.95%	79.12%	80.18%	79.61%	87.29%	84.79%	82.64%	77.92%

※平成27年12月22日より、定員38名から34名へ変更

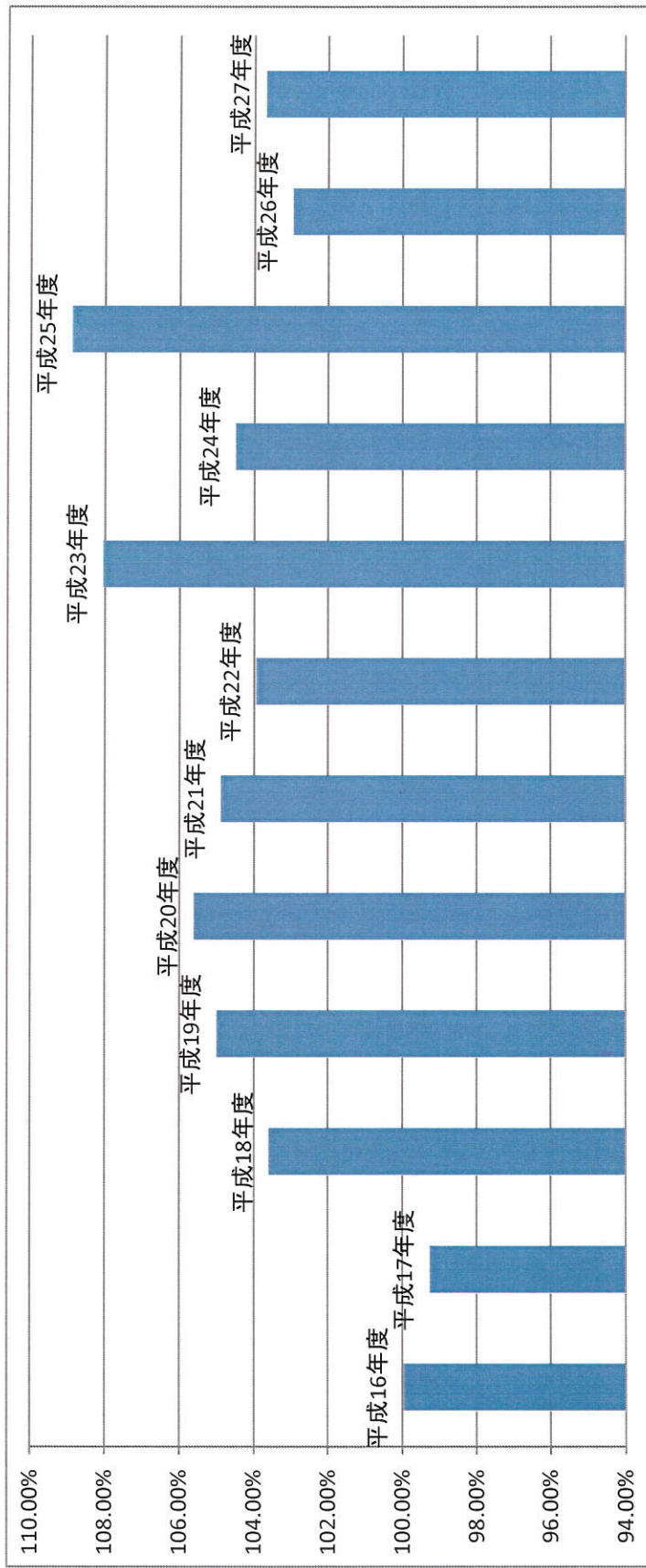
(別表9)



(別表10) <月別稼働率>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養 ・ショート(定員46名)	1,016	1,075	1,140	1,163	1,132	1,083	1,073	1,032	1,085	1,117	1,087	1,109	13,112
ショートステイ	437	399	286	285	360	368	363	410	409	362	289	378	4,346
計	1,453	1,474	1,426	1,448	1,492	1,451	1,436	1,442	1,494	1,479	1,376	1,487	17,458
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,334	1,426	16,836
稼働率	105.29%	103.37%	103.33%	101.54%	104.63%	105.14%	100.70%	104.49%	104.77%	103.72%	103.15%	104.28%	103.69%

(別表11)



年度	稼働率
16年度	99.96%
17年度	99.26%
18年度	103.59%
19年度	104.99%
20年度	105.61%
21年度	104.88%
22年度	103.93%
23年度	108.05%
24年度	104.50%
25年度	108.88%
26年度	102.96%
27年度	103.69%